

令和元年度 学校評価 自己評価書

あま市立美和小学校

1 総括

(1) 本校の教育目標

心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図るとともに、心豊かな人間形成と自己実現をめざし、国際社会に貢献する児童の育成を図る。

＜めざす児童像＞

- ・ 考える子 …………… 自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢を身につけ、
【力いっぱい】 自己実現に努める態度を養う。
- ・ 思いやりのある子 … 礼節を重んじ、豊かな人間関係づくりに努める態度
【笑顔いっぱい】 を養う。
- ・ がんばる子 …………… 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きぬく力を
【元気いっぱい】 養う。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実

- ・ 児童の知的好奇心や探求心を大切にし、主体的に調べたり考えたり、自分の考えを説明したりする活動を取り入れた授業により、思考力や表現力を高める指導を工夫する。
- ・ 体験的活動や問題解決的活動などにより、児童にわかる喜びや学ぶことの楽しさと充実感を味わわせ、自ら学習する習慣づけを図る。
- ・ ユニバーサルデザインを意識し、学習に集中できる環境づくり、わかりやすい授業づくりに努める。
- ・ 少人数指導や TT 指導の指導方法を工夫し、個に応じた学習指導の充実を図る。

イ 豊かな心の育成

- ・ 生活の基本姿勢として、「時をまもり、場をきよめ、礼をただす」の指針のもと、あいさつをはじめとする基本的生活習慣の徹底を図る。
- ・ 道徳教育や人権教育の推進に努め、互いを尊重し認め合う児童を育てる。
- ・ 学級・学年の活動や児童会活動・異学年集団での活動を充実させ、よりよい集団づくりによって、自己の役割と可能性を見いださせ、相手を思いやる優しい心が身につくようにする。

ウ 健康・安全教育の充実

- ・ 健康で安全な生活を送るための基礎を培い、健康の保持増進と心身ともに健康な生活づくりに努める。
- ・ 相談活動を充実させ、心と体の健康づくりを進める。
- ・ 「自分の命は自分で守る」という安全に対する意識や危機に対する認識を深め、自ら安全に行動できる力を育てる。

エ 家庭や地域との連携

- ・ コミュニティスクールを中核として、地域や保護者との連携を図るとと

もに、地域の人材や教育力を学校教育に生かす。

- ・ 積極的に情報を発信するとともに、児童や保護者、地域の人々による学校評価および教職員による学校評価を充実させ、互いに情報交換する場を設ける。
- ・ 近隣の小中学校や幼稚園・保育園との連携を深め、小1ギャップ・中1ギャップの解消を図る。

オ 校内現職教育の推進

- ・ 道徳の時間の充実とともに、各教科・領域との横断的・総合的な教育を展開し、道徳的实践力を高める研究を進める。
- ・ 外国語の学習活動やプログラミング的思考を培う学習をはじめ、教師自らが授業力の向上をめざし、授業研究を通して指導技術や学習効果の向上を図る。

カ 多忙化解消にかかる取組

- ・ 教員が児童としっかり向き合い、質の高い授業や個に応じた指導を行っていくために、学校全体で組織的に、教員の担うべき業務の適正化を推進する。
- ・ ベテラン教員の知恵と若手教員の創造力を融合して、学校行事の精選を図り、小さな労力で大きな成果を生み出す工夫をする。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査期間 令和元年11月25日(月)～12月17日(火)

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象

・ 3～6年児童	300名／300名	・ 教職員	27名／27名	
・ 保護者	343名／418名			計 670名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察(アンケート結果より)

(1) 「先生は、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業を工夫している」「先生は、子どもをよく理解し、真剣に対応している」「お子さんは、楽しく登校している」「お子さんは、学校で好ましい友人関係を築いている」の項目について、児童・保護者・教師の評価が高い。

一人一人の児童に寄り添い、分かりやすい授業実践を行うことにより、家庭の協力と信頼を得て、子どもたちは楽しく学校生活を送っていることがわかる。

(2) 「お子さんは、歌うことが好きで、楽しく合唱している」の項目は、教師の評価は高いものの、保護者・児童の評価が高くない。

朝の歌や卒業式の合唱など、児童は、元気のよい歌声を校内に響かせている。しかし、正しい発声や音程で歌う指導はできているものの、歌う楽しさや喜び

を味わわせる指導までには至っていないことがうかがえる。

- (3) 「お子さんは、交通安全に心がけ、自他の命を大切に落ち着いた生活を送っている」「お子さんは、いつも明るく、元気のよいあいさつができています」「学校の施設・設備は充実していて、教育環境が整っている」「学校は、危険箇所や不審者対応への配慮がなされ、安全である」の項目は、児童・保護者の評価は高いものの、教師の評価が高くない。

多くの教員が、通学班や校内での事故、不審者対応等の危機管理意識の育成の必要性を感じている。また、あいさつを基本とした基本的生活習慣の育成や、老朽化した施設・設備及び危険箇所の改善による安心安全な学習環境を望んでいると考えられる。

- (4) 「お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる」の項目は、保護者の評価が高くない。

毎朝、読書の時間を設定したり、地域のボランティアによる読み聞かせ活動を行ったりしているものの、読書の楽しさを感じさせるまでは至っていないため、家庭において読書にいそしむ姿があまり見受けられないことがうかがえる。

5 課題と改善

- (1) 今後も、教材研究や校内研修を充実させ、授業研究を全校体制で進めることで、「わかる、できる、楽しい」授業実践を追究する。また、個に応じた指導を徹底し、保護者や地域との連携を密にしながら、児童が友達と仲良く、楽しく安心して生活することができる学校づくりを行っていく。
- (2) 毎朝学級で取り組んでいる合唱や、朝礼時の全校合唱への取組を充実させ、音の響き合いや、歌に込められた思いを自分で表現する楽しさを味わわせる。また、本物にふれる驚きや美しさへの憧れ、心震わす感動などの体験を通して、豊かな感性を育成する。
- (3) 通学班による安全な登下校を確保するために、班長や副班長の役割を明確にし、通学班全員による協力体制の確立を図る。また、家庭や地域の協力を得ながら、教師自ら率先してあいさつを行い、異学年交流活動や児童会のあいさつ運動などを通して、あいさつを大切にした基本的生活習慣の育成を図る。学校施設及び危険箇所の整備に関しては、子どもたちの安全で安心した学習環境の確保という視点から優先順位を考え、計画的に学習環境を整えていく。
- (4) 本年度より、学校運営協議会の取組の一つとして、地域ボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。全学年への読み聞かせ活動を通して、さまざまな書籍にふれることができ、図書室の利用率も徐々に増加している。今後は、保護者からもボランティアを募ったり、図書室の蔵書を積極的に利用したりすることで、児童にとって読書がより身近に感じられるように取り組んでいく。